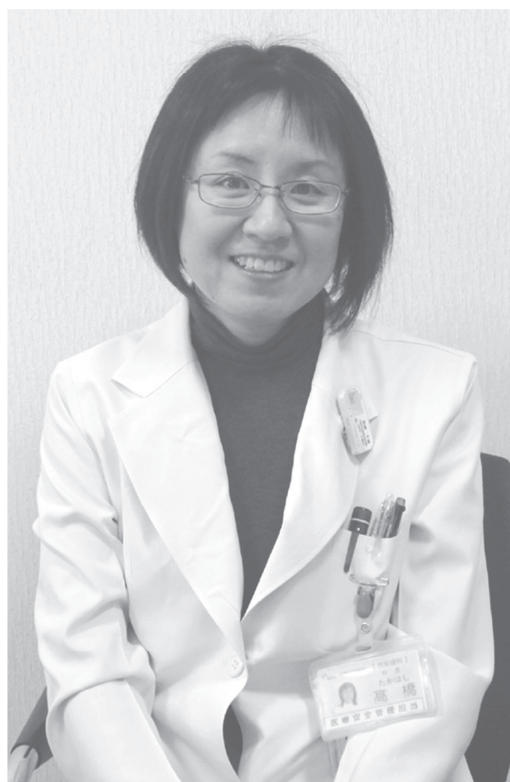


DOCTOR

ドクター
クローズアップ closeup ①

函館中央病院放射線科科長

高橋 千尋 氏



たかはし ちひろ

平成元年北海道大学医学部卒業。

同年北海道大学病院勤務。

平成10年米国ロチェスター大学医学部入局。

平成14年北海道大学病院勤務。平成15年函館中央病院放射線科勤務。同18年函館中央病院放射線科 科長就任、現在に至る。放射線診断専門医、NR懇話会世話人。

神経放射線を専門とする放射線診断専門医

最先端の画像検査を有効、安全に実施する

函館中央病院放射線科の高橋千尋医師は道南では唯一の神経放射線を専門とする放射線診断専門医だ。

札幌生まれの高橋医師はクラシックギターのセミプロだった父の影響から、中学・高校では音楽の道を進むことにしていたが、高校3年生のときに教師の助言が転機となって、医師への道を志すことに決めた。

卒業後は同大学の神経内科に入局する。「神経系の何処に障害があるのか、その部位と原因により様々な症状がでますが、難しい診断技術に興味を持ちました」。2年間の研修中、脳や脊椎の画像診断への関心が強くなり、神経内科から放射線科の医師となった。

腹部に分かれている。高橋医師は画像診断の神経放射線を専門領域とし、平成10年からは数多くの医療用実験装置を備えた医学研究センターのある米国ロチェスター大学で4年間、神経放射線について学んできた。

平成14年に帰国後は北海道大学病院を経て函館中央病院放射線科へ着任する。高橋医師が担当するのは脳神経外科や脊椎を中心とする整形外科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、内科、婦人科で、疾患では脳梗塞や認知症、パーキンソン病、ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など脳や脊椎の画像診断を担当している。

「画像診断の流れは「主治医が画像検査を必要と判断した場合、疑われる疾患名や画像検査に至った目的が記された検査依頼書が届きます。診断医は依頼書に基づき有効な検査条件を組み立て、技師が検査を実施。診断医は検査後の画像を読影、所見と診断名を記した報告書を作成し、画像と一緒に主治医へ送ります」。最近ではアルツハイマーや認知症に関する開業医からの依頼も増えているが、認知症が疑われる場合には脳血管障害など脳の疾患のケースも少なくない。近年はMRIやCTなど画像検査の進歩が著しく、画像解釈も高度で複雑になっている。「非常に優れた診断能力を持つ画像検査は、一方で身体に害を及ぼしかねない放射線や電磁波を使用するという危険な側面も持ち合わせていますので、最先端の検査を有効に、かつ安全に行うためには専門知識を有する診断医が必要とされるようになっていきます」。

高橋医師は「患者さんにとって画像検査は大きなイベントでとても重みがありますので、一つひとつ大切に読影し、なるべくわかりやすいレポート作成を心がけている」と話す。

趣味は4年前から始めたランニング。函館ハーフマラソンにも出場し完走した。毎朝5時に起きて10キロ走るのが日課で、「眠る時間を削ってまで走っている」と笑う。今後はフルマラソンにも挑戦する予定だ。